

◆朝日新聞社賞◆

〈両部門にかかわる活動〉

「シリア・パレスチナ難民の子どもたちと絵を通した異文化交流」

ジャパンアートマイル（兵庫県）

〒678-0205 兵庫県赤穂市大町2-16

■実践事例報告の概要

ジャパンアートマイルのプロジェクト「シリアと日本のアートマイル」は、関西大学、国連機関（UNRWA）と共同で実施している絵を通した異文化交流プロジェクトである。日本の中学生とパレスチナ難民の中学生が、電子掲示板やテレビ会議を使って互いの文化を学び合った後に、二つの文化を融合させた壁画を共同制作する過程を報告したい。

実践のねらい

当プロジェクトに参加した日本の中学生がパレスチナ難民の中学生とインターネットを活用して互いの文化を学び合い、学んだことをテーマに壁画を共同制作して共存共生の意味を学んでいく過程を報告する。参加した中学生は、これまでも「英語を勉強する」から「英語で勉強する」を目標に海外の学校と異文化交流学習に取り組んできた。しかし、今回は今までと大きく違う要素がある。それは、相手が国籍を持たないパレスチナ難民であることと、学びの成果として共同で壁画を制作することである。

そこで次のようなねらいを設定した。

- ①自文化意識の育成と異文化理解の促進
- ②インターネット活用能力の向上
- ③英語によるコミュニケーション力の向上（交流言語は英語）
- ④学び（インプット）から絵による表現（アウトプット）へ＝創造力の育成
- ⑤共同作業により全体の中で個を発揮する力の育成

特徴・工夫・努力した点

(1)「パレスチナ難民」との交流

第1の特徴は、これまで実践してきた国際交流

学習が主に先進国が中心であったことに対し、当プロジェクトでは紛争やテロに常に直面している中東のパレスチナ難民との交流であること。交流中に起きたイスラエルのレバノン攻撃など生きた学習が展開されている。

(2)大学・国連機関・JICAとの連携

これまで途上国との交流は非常に困難とされてきたが、大学・国連機関・JICAとの連携による支援体制を整えることでこれらの課題を解決した。現場の調整をJICA（現地青年海外協力隊員）やパレスチナ難民を支援している国連機関（UNRWA）が行い、日本とシリア間の調整を大学（関西大学大学院・久保田研究室）が行った。

(3)インターネットを最大限に活用

交流学習の主な手段は電子掲示板（資料）とテレビ会議（写真）。テレビ会議は相手の顔が見える交流であり、回数を重ねるうちに自分たちの将来の夢を語り合うなど実感を伴う会話ができるようになった。生徒は異なる背景を持つ人と友だちになることが共存共生に繋がることに気付き始めている。また、プロジェクトの各段階（交流・異文化学習・下絵制作・壁画制作）でテレビ会議を実施することにより次の段階へスムーズに移行できた。一方、スタッフ・教師同士のメーリングリスト活用がプロジェクトの円滑な進行に大いに役立った。

資料・Web掲示板で下絵を共同作成した下絵の原画



写真・下絵を持ち寄り、テレビ会議で先生同士のミーティング

(4)知らない相手を知る工夫

パソコンの画面上だけでの交流はややもするとリアリティーに欠ける交流となる。そこで中東やシリアに滞在経験のある人から直に話を聞く機会を設けた。1回目「シリアとパレスチナ難民」。2回目「中東アラブの世界」。生徒にとって遠い世界がグッと近くなった。

(5)共同で1枚の壁画を描く

シリアが日本を描き、日本がシリアを描く。相手の国を描くことで異文化学習の動機が強まり、相手を知ろうとする意欲も高まって学びを深めることができた。

実践内容

【4～6月】自分たちの身近にある「日本の伝統行事」をファイルにまとめて送る。掲示板・テレビ会議を使って交流学習。よりリアルに伝えるためにビデオレターを送り合う。

【7月】掲示板・テレビ会議で相談をして共同で壁画の下絵作り。絵のテーマは「異文化の融合シリアと日本のお祭り」。

【8月】シリア側が壁画の半分を作成。

【9～10月】日本側が残りの半分を描いて壁画を完成。

【11月】全日本教育工学全国大会で展示。2月から3月にシリアで展示した後、2010年エジプトのピラミッドを取り囲む「世紀の大展覧会」（アートマイル壁画プロジェクト主催）に出展する予定。

実践結果

【生徒の意識の変化】

交流が始まって1か月、シリアについて学ぶ前

後でどうイメージが変わったかを絵で表現するイメージマップをとった。学習の前と後では「銃・地雷→サッカー・バスケットボール」「テント→アパート」「食糧不足→豊かな食料」と大きく印象が変わった。初めはまったく違う世界だと思っていたところが自分たちの生活とさほど変わらないことに驚く。さらに相手を知るにつれて「類似」の中に「相違」を発見する。そうした「発見」から異文化および自文化の理解を促進させることができた。

【世界の出来事に直面した生徒たち】

7月～8月イスラエルがレバノンを攻撃し、避難民が交流校周辺にもやってきた。生徒たちにとってテレビのニュースがそれまでのように人ごとではなく、世界で起きていることに敏感になった。

【友だちのいいところを発見】

発表するのは苦手だけど絵がうまい子。文法は苦手だけどメールを打つのは速い子。話すのは苦手だけど書くと自分の考えを出せる子。人のいいところを認め合うとみんなの中で個の力を発揮できるようになった。

考察（今後の課題）

シリア・パレスチナ難民との交流という前代未聞のこのプロジェクトは、大学や国連機関との連携で実現し、生徒たちにとって意義深い学びとなった。しかし、普通の学校が普通に取り組める活動でないと広く子どもたちがその大きな教育効果を楽しめない。ジャパンアートマイルでは、今回の実践例を基にプロジェクトのカリキュラム化という課題にも取り組み、来年度以降も引き続きこの絵を通じた交流学習を展開したいと考えている。